

9 識別問題のジヤパンカップ 「に」の識別

♥「に」ができれば、あなたもG Iホース。馬でもG I馬になれる馬は超人物。人間なら大人物！

《 識別対象 》

「に」ーちゃん①けい②かん③だ④まな⑤ぶく⑥かく⑦せ！

①形容動詞の連用形活用語尾

あながち

いたづら

おぼろげ

②完了の助動詞「ぬ」の連用形

見侍り

暮れ

散り

③断定の助動詞「なり」の連用形

竜のしわざ

この川、飛鳥川

④ナ変動詞の連用形活用語尾

死

往

⑤副詞の一部

よ

げ

つひ

さら

いか

まこと

⑥格助詞「に」or「にて」の一部

山

お供

⑦接続助詞

憎き

寄りて見る

中光たり。

★ 識別のポイント

※お試しプリントでは①、②は省略して一番重要な「断定」の「に」を取り上げました。

③へ 断定の助動詞「なり」の（連用）形 ☆接続Ⅱ（体言）（連体）形に付く。

※断定の「なり」の活用を確認してみよう。



☆下に「あり」があって「に+あり」で、「〜である」と訳せる「に」は断定だ！

②これは竜のしわざだこそありけれ。⇨これは、竜のしわざ（であった）のだ。

③この例のように「に」+「あり」の間に割り込むのは助詞くらいで、「に」と「あり」が遠くに離れることはない。

④この川、飛鳥川にあらねば、この川は飛鳥川（ではない）ので、おぼしけるこそ。（省略されている）「こそ」の「結び」である「あらむ」を補って（

⇨お思いになった）のである。（

◆ハイレベル

♥この断定の「に」は下に「あり」を伴って、「〜である」と訳せることが識別の最大のポイントだが、この「あり」が丁寧語の「侍り・候ふ」、尊敬語の「おはす・おはします」になつている場合はレベルが高いので、訳をきちんと確認して識別しよう。

①「この獅子のたてられやう、定めて習ひあること」は「侍らん」「その事に候ふ」

|| 「この獅子の立てられ方には、きつといわれがあること」は「**侍ります**」

②大入道殿の五郎君、ただいまの入道殿に「おはします」。

|| 大入道殿（|| 兼家公）の五男君は、現在の入道殿（|| 道長公）（**でいらつしやいます**）。

★断定の「に」の発展ヴァージョン

□「あり」の変身パターン



例「定めて習ひあること」は「侍らん」|| 「きつといわれがあること」は「侍ります」

例「その事に候ふ」|| 「そのことばに**侍ります**」



例 大入道殿の五郎君、ただいまの入道殿に「おはします」。

|| 大入道殿（|| 兼家公）の五男君は、現在の入道殿（|| 道長公）でいらつしやいます。

②「あり」の省略パターン

